

# 令和 6 年度 なかぐしくどうん 中城御殿跡地整備検討委員会 概要

1. 令和 6 年度の中城御殿跡地整備検討委員会・部会について
2. 令和 6 年度検討スケジュール（予定）
3. 令和 5 年度第 2 回委員会以降の動向について

# 1. 令和6年度の中城御殿跡地整備検討委員会・部会について

- 令和6年度は主に、第一期工事（上之御殿エリア）の工事、第二期工事（御内原・表御殿西側エリア）の設計・工事、展示収蔵環境を含む施設の管理体制などを検討する。また関連する龍潭周辺整備の状況も引き続き確認する。
- 御内原・表御殿西側エリアの展示設計等が中心となることから、「御内原・表御殿西側エリア検討部会」を設置し、具体的な課題などについて検討する。
- 部会における検討内容は、検討委員会で諮る。

## 検討委員会（3回予定）

【委員】	歴史	田名 真之	前沖縄県立博物館・美術館 館長
	歴史	高良 倉吉	琉球大学 名誉教授
	都市計画	池田 孝之	琉球大学 名誉教授
	考古、漆芸史	安里 進	沖縄県立芸術大学 名誉教授
	景観、建築	山城 一美	(公社)沖縄県建築士会副会長
	保存科学	早川 泰弘	東京文化財研究所 特任研究員
	地域、建築	伊良波 朝義	NPO法人首里まちづくり研究会理事長 (公社)日本建築家協会沖縄支部 支部長
	工芸（染織）	與那嶺一子	琉球大学 非常勤講師

【協力委員】	沖総局	大石 智弘	開発建設部 公園・まちづくり調整官 首里城復元整備推進室長
	沖縄県	仲 厚	土木建築部 参事
		仲嶺 智	土木建築部 南部土木事務所長
		喜納 久	土木建築部 都市公園課長
		瑞慶覧 勝利	教育庁 文化財課長
	那覇市	親富祖 ちか	文化観光スポーツ部 文化振興課 県立博物館・美術館 副館長
		佐久川 泰尚	都市みらい部 参事兼都市計画課長
		上原 清実	市民文化部 文化財課長
	指定管理者	福地 敬	(一財)沖縄美ら島財団 事務局長

## 御内原・表御殿西側エリア検討部会 (2回予定)

- 御内原・表御殿西側エリアの展示設計等に関する詳細・具体的な内容を議論する。
- 委員及び関係部局によって構成するが、適宜、検討課題による専門家などをアドバイザーとして招聘し、アドバイスを受ける。

【委員】	【関係部局・アドバイザー】		
今後調整	専門家 アドバイザー	〇〇関係	今後調整
		〇〇関係	今後調整
	関係部局・ オブザーバー	沖縄県関係	土木建築部参事、都市公園課、文化財課、 県立博物館・美術館、沖縄美ら島財団
		那覇市関係	文化財課
	国関係	沖縄総合事務局、文化庁	

## 2.令和6年度検討スケジュール（予定）

※進捗に応じて変更になる可能性がある

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
検討委員会	第1回						第2回			第3回	
部会					第1回			第2回			
関係者調整	調整								調整	調整	
検討内容				御内原・表御殿西側エリア 展示設計							報告書
	管理運営体制の検討										

月	会議	議論テーマ（案）
R6.6月6日	第1回検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度の内容確認</li> <li>管理体制の検討</li> <li>御内原・表御殿西側エリア実施設計報告</li> <li>龍潭周辺の整備についての確認</li> </ul>
R6.10月	検討部会①	<ul style="list-style-type: none"> <li>展示・収蔵設計の検討（展示方法等）</li> <li>管理体制の検討</li> </ul>
R6.12月	第2回検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>展示・収蔵設計の検討</li> <li>管理体制の検討</li> <li>御内原・表御殿西側エリア、上之御殿エリアの整備の進捗についての確認</li> <li>龍潭周辺の整備についての確認</li> </ul>
R7.1月	検討部会②	<ul style="list-style-type: none"> <li>部会①及び第2回委員会を受けての修正事項について確認</li> </ul>
R7.2月～3月	第3回検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>成果の確認、今後の課題等について確認</li> </ul>

### 3.令和5年度第2回委員会以降の動向について

- 令和5年度第2回検討委員会（2023年12月20日開催）以降、沖縄県（首里城復興課）、那覇市（文化財課、歴史博物館）、沖縄美ら島財団を中心とする関係機関の調整会議を行い、管理運営体制や施設の設計条件について検討を行っている。また、あわせて文化庁との協議も実施中。
- 御内原・表御殿西側エリア検討部会（1回実施）における主な意見は下記のとおりである。

#### 管理運営体制

- 文化庁には、中城御殿における展示・収蔵や調査研究といった活動内容、予算規模や管理運営について説明した上で、博物館登録施設として認めてもらうことになる。特に、管理運営体制については、文化庁に詳細に説明する必要がある。
- 首里城関連美術工芸品には修復が必要な資料が残っており、修復が終わったものから中城御殿に収蔵する。また、南殿が整備されたら一部移すことなどが考えられる。

#### 外構計画（スロープ等）

敷地部分と敷地外と高低差が生じることから、段差解消のため正門側でのスロープや階段等の設置を検討した。

- 外構については、安全性の観点からもスロープだけでなく階段等、避難経路は同じ幅員で整備しないと事故につながる可能性がある。
- 防災の観点から安全性、将来整備予定の木造復元部分の外構との整合性、往時なかったものを石垣で整備するのか、古写真でも見えるような小さな庭も再現する必要があるのではないかなど、課題を整理して改めて検討していただきたい。
- 正門の出入りは中央の扉だけ使用するのか、両脇の扉も使うのか。脇の扉を閉めるのであれば、階段の幅を調整でき、スロープの距離を確保できる。また、スロープを石牆と平行にする必要はあるのか。往時の門の位置を確認しながら検討すべきである。
- 狭いスロープを出てすぐ入口があり、曲がりも多いとなると、渋滞や車イス利用者と一般の来館者との交錯が起きないかと気になる。
- 表御殿東側エリアが復元された際には、ここが正門側への避難通路になると想定される。そのため避難経路も含めて検討をお願いしたい。

## 3.令和5年度第2回委員会以降の動向について

### 防災・防火対策

#### <火災発生時に応じたシナリオ>

- 消防隊は、最初に監視室にアクセスし火災の状況を把握するのがセオリーである。現在の図では、左下に消防車両が示されているが、小型消防車であればトラック出入口から入れるのではないか。消火栓も北側道路に取水口があるため、もうひとつの進入経路としても考えておく必要があると思う。正門外側から警備員室までの移動、特に木造復元部分で火災が発生したときのことを考えれば、北側からも攻められるよう、計画に厚みを持たせた方がよい。

#### <防火区画>

- 監視室と資料室、執務室が一つの区画だが、資料室や執務室等、様々な使われ方で出火リスクも高まると想定される。司令塔となる監視室を防火区画して徹底的に守ることが妥当だと考える。
- 文化財を守る観点から、防火区画が一重だと、温度上昇を許容していることと同じである。そのため、二重にする必要がある。木造復元部分が火事になった際に展示室を守るためには、特定防火設備である北棟ロビー出入口が自動で閉まるようにしておけば十分だと思われる。

#### <その他>

- 表御殿東側エリアの正面に屋外消火栓の表示があるが、景観的に重要な場所になるため、適切な位置なのか再度検討したほうがいい。
- 車イス利用者が自力で逃げようとしている方向から健常者が逆向きに逃げてきたら身動きが取れなくなる。それをきちんと避けられる避難動線が必要で、バリアフリーを必要とする人がどこにいるか、どの方向に逃げるかという視点で見てほしい。
- 今後、防火だけでなく地震対策も検討すべき項目と考えているので、どこかに記載していただきたい。

# (参考) 整備スケジュール

▽ 令和8年首里城正殿復元工事完成予定

